平成29年度

親子広島バスツアー

～平和・非核学習の旅～

感　想　文　集

平成 29 年 (2017 年) 8 月 5 日～6 日

原水爆禁止西宮市協議会

西　　宮　　市

も　く　じ

感想文集発行にあたって			･････ 1
親子広島バスツアーに同行して	西宮市原爆被害者の会	川内　工一	･････ 2
広島原爆忌に訪問して	西宮市原爆被害者の会	大高　敬雄	･････ 4
親子広島バスツアーに参加して		青木　絢香	･････ 5
親子広島バスツアーに参加して		青木　美欧	･････ 5
広島のすごさ		穴田　優芽菜	･････ 6
広島ツアーと平和		穴田　雅彦	･････ 6
わすれられないせんそう		池田　早来	･････ 7
親子広島バスツアーに参加して		池田　雪江	･････ 7
親子広島バスツアーに参加して		井原　今日香	･････ 8
親子広島バスツアー		井原　京介	･････ 8
原爆の悲惨さ		岡田　かれん	･････ 9
親子広島バスツアーに参加して		岡田　恭子	･････ 9
親子バスツアーに参加して		奥村　咲太郎	･････10
親子バスツアーに参加して		奥村　真名美	･････10
初めて行った広島		木下　晨	･････11
72年前のあの日を想い、子供たちに残したいこと		木下　陽平	･････11
親子広島バスツアーに参加して		工藤　笑子	･････13
親子広島バスツアーに参加して		工藤　守	･････13
広島バスツアー		倉金　環	･････15
親子広島バスツアー　平和・非核学習の旅　に参加して		倉金　希帆	･････15
広島バスツアー		坂口　迅風	･････16
親子広島バスツアー		坂口　真生	･････16

広島バスツアー参加して　下田　蒼真　・・・・・・・17
２度目のヒロシマ　下田　真美　・・・・・・・17
広島バスツアーに参加して　滝沢　実久　・・・・・・・19
親子広島バスツアーに参加して　滝沢　淳子　・・・・・・・19
広島平和記念式典　田中　友理愛　・・・・・・・21
二度目の広島　田中　真由美　・・・・・・・21
親子広島バスツアーに参加して　野武　耕助　・・・・・・・22
親子広島バスツアーにさん加して　野武　由紀乃　・・・・・・・22
親子広島バスツアーに参加して　野武　恵次郎　・・・・・・・23
親子広島バスツアーに参加して　樋村　莉彩　・・・・・・・24
親子広島バスツアーに参加して　樋村　恵津子　・・・・・・・24
初めての広島　宮長　真尋　・・・・・・・26
娘との広島バスツアー　宮長　義人　・・・・・・・26
広島、そして長崎　村瀬　渉　・・・・・・・27
広島バスツアーに参加して　村瀬　洸　・・・・・・・28
こどもたちとの体験　村瀬　歩　・・・・・・・29
平和な世界を大切に　藪中　一輝　・・・・・・・30
子と一緒に平和を勉強して　藪中　嘉彦　・・・・・・・30
親子広島バスツアーに参加して　山下　爽来　・・・・・・・31
親子広島バスツアーに参加して　山下　直美　・・・・・・・31
広島ツアー　山本　大翔　・・・・・・・32
平和を考える旅　山本　愛子　・・・・・・・32
平成 29 年度 親子広島バスツアー行程表　・・・・・・・33

感想文集発行にあたって

本市は昭和 58 年 12 月 10 日に「平和非核都市宣言」を行い、平和を愛する社会をはぐくみ、築くことを誓いました。また平成 22 年には、平和首長会議に加盟し、国内外の都市と連携して核兵器のない平和な世界の実現への取り組みを進めているところです。「親子広島バスツアー」は、平和の大切さについて親子で考えていただく機会として、原水爆禁止西宮市協議会と市が、昭和 63 年より毎年実施しており、今年で 30 回目を迎えました。

「親子広島バスツアー」では、原爆ドームや広島平和記念資料館の見学、平和記念式典への参列などを通して、改めて戦争の悲惨さ、平和の大切さを考えていただけたのではないでしょうか。

戦後 72 年が経過し、戦争を体験された方が高齢になられている現在、次世代へ平和を継承していくために、過去を学び、知る努力をしていくことが必要です。

「親子広島バスツアー」に参加された皆さんには、この２日間で得た経験や思いを多くの方に伝えていただき、核兵器の廃絶、恒久平和の実現に向けて、歩んでいただけることを切に願います。

平和非核都市宣言

青い空、緑の大地、そして、おだやかな暮らしは、
わたくしたち西宮市民のみならず、
平和を愛するすべての人の願いです。
そんな平和への願いとはうらはらに、
世界はおろかにも人類を何十回も滅ぼすほどの
核兵器を蓄積しました。
核戦争に未来はありません。
恐ろしい核兵器をつくってはならないし、
持ってもいけないし、持ち込ませてもなりません。
わたくしたちは、
世界中に核兵器の廃絶を強く訴えるとともに、
平和を愛する社会をはぐくみ、築くことを誓い、
平和非核都市をここに宣言します。

昭和 58 年（1983 年）12 月 10 日

西　宮　市

平和非核都市マーク

平和非核都市 西宮

宣言を記念して昭和 59 年(1984 年)４月に一般公募し、７月に「平和非核都市マーク」を制定しました。地球を二羽のハトで包み込み、恒久平和への願いを表現しています。

親子広島バスツアーに同行して

西宮市原爆被害者の会　川内　工一

平和記念公園に「平和の鐘」が鳴り響く…

公園内の式典参列者５万人が、８時 15 分の「黙禱」に、慰霊碑に向って皆で静かに首を垂れて捧げている。

この 60 秒間は、世界中の平和を願う人々が“平和を考える場所、未来を考えるスタートの場所、広島”のビッグタイムに、公園の蝉たちも鳴きやんだかのような、鎮魂の厳粛なひとときが漂っていた。

８月６日、72 年前のあの日も朝から暑い日差しのギラギラした猛暑の下で、平和記念式典会場では「広島原爆の日」の平和宣言が粛々と執り行われていく。

その会場に西宮市の１泊２日「親子広島バスツアー」に、市内の小学生が応募した親子約 80 組の中から選ばれた、20 組が参列している、そこには市担当者と被爆者の会から各２名が同行し、語り継ぐ緊張感を以って世話した。

この２日間で、参加 22 名の少年少女たちが現地を見て、聞き、触れて夫々が何かを考える度に、刻々と成長したと、結団式から 33 時間後の解散時に「ありがとう…」の笑顔に、自信溢れる輝く目から確信した。この親子広島バスツアーが 30 周年目を迎えて、更なる重要行事だと私は感じた。

ここからは、ツアーで私が観た紀行文です。

１日目は、５日（土）午前９時、市役所前に初めて顔合わせた親子は、元気に貸切バスで出発した。２日間晴れも猛暑の天気予報、２回休憩して 14 時半に目的地の原爆ドーム前へ到着した。

相生橋から平和公園へ入るコースに、子供達の行動が目覚めた。左に原爆ドームを見て親子がカメラを構えて、「ハイチーズ」といきいき動く。

「原爆の子の像」周辺は混雑して独特な雰囲気が漂っていた。持参した折り鶴を捧げたり、像の小さな鐘を並んで、順々に合掌して引き鳴らしに時間を要したが貴重なタイムで、像の下で全員集合の写真を撮り、元安橋を渡りドームの間近へと進んだ。ドームを背に記念写真を撮ってから爆心地を巡って、リニューアルした平和記念資料館・東館へ入館した。

館内は大勢の人でゆっくりと観れなかった、また、展示方法が大きく変わっていた。最新技術を駆使して、映像が投影されるのが主体となり、被爆実物が少なく物足りなさを感じた。変革の時代だろうか、記憶をどう伝えるか難しい！

夕食後の「被爆体験記朗読会」は、宿泊ホテル内で、現地のボランティア女性３名による朗読に、子供達の真剣な眼差しが見れた。それは全員での朗読の後に、１人朗読に多くの子が挙手して読み上げ、３人の親も朗読され、参加者の意気込みが窺えて感銘した。この活動は被爆者の会でも大いに参考となる。

翌２日目は、６時から朝食、６時 40 分出発、皆んな元気にバスに乗り込んだ。

会場近くで降り、多くのボランティア活動をしている少年達から献花を受取り、テント場所へ進んだが、既に入り口が満席で閉鎖の想定外に見舞われた。

例年のテントの中から、暑さを避けて式典を間近に見れる場所確保を計画したが、今年だけの事情があり、止むを得なかった。資料館本館の免震構造工事で仮囲いから、会場の座席

数が昨年より 3,200 席減り、7,700 席に縮小したと後で知った。
　そこで式典参列は自由行動方式に指示された。先に、式典前に献花を行うとして大混雑から抜け出し、どうにか慰霊碑で合掌でき散会した。
　私は一人で、公園内を一周して状況把握の行動にでたが、大掛りな警備エリアから会場半分しか廻れなかった。それでも式典中に多くの事を知った。
　一つは、テレビや新聞等では伝えないことを見聞できた。参列者は慰霊碑の前面地域だけでない当然の実態を知る。木陰に陣取って座して佇む人達。あちこちにテレビモニター設備された画面を直視している多くの人々、また、周りに多くの警備員、各種のボランティア活動の使命感漂う行動など、舞台裏で式典を支える人々の底力を改めて知った。中でも、多くの外国人に驚いた、人種も宗教も違っていて、観光客風でない２人連れが三々五々に多いことに、その方々は式典中に慰霊碑方向に佇み、言葉不明朗でも、静かに聞き入り、首を垂れる姿に感激し、インタビューしたい衝動に駆られた。
　さて、式典終わって、被爆したアオギリの地に集合し点呼。揃ったメンバーの表情は爽やかだった。出発まで自由行動タイムとなる。希望者には公園内の記念碑説明と昼食場所への案内コースを設け、９組が残り、同行した広島被爆者、大高さんのガイドで暑い中をスタートする。ゆっくりと巡り感傷した。その時に美しい光景を見た、「平和の鐘」での一コマ。周りの池に大賀ハスが植えられた中に“世界は一つ”を浮き彫りされた大きな鐘を、殆どの子が並んで順に鐘を撞いたのだ。鐘木を引く前に合掌する真剣な仕草と撞いた後の表情が、姿が美しく、つい感動してシャッターを押し続けた。
　また、帰りのバス車内で、今回、唯一人中学生の渉君と相席で会話ができた、少年の将来の抱負などを聞き、しっかりした知見を窺い、嬉しい一時だった。
　今回の若い人達と共に“平和を考える”の場を持てた縁を大切にし、このツアーが継続されることを改めて切望する。
　被爆者一人ひとりは微力だが、結束して≪核兵器の廃絶≫を最後の一人になるまで世界に訴え続ける。
　　～被爆は私を最後に～　が我々の祈願…。

西宮市原爆被害者の会の方に広島平和記念公園内の
記念碑などの説明をしていただきました

広島原爆忌に訪問して

西宮市原爆被害者の会　大高　敬雄

小学校４年の頃、母から初めて母の両親と弟の３名が広島の原爆で亡くなった事を聞かされた。正直言って原爆がどのようなものであるか当時は全くわかりませんでした。その後、原爆によって引き起こされた悲惨な出来事を学校で習ったり、報道で見たり聞いたりするうちに一度は「平和記念式典」に是非参加したいとの思いを永年もっておりました。そしてこの度、西宮市親子広島バスツアーに縁あって参加する機会に恵まれた次第です。１日目（５日）は朝、西宮を出発し 14 時 30 分広島平和記念公園に到着、折鶴をおさめ、原爆ドームの見学、資料館を見てホテルへ、19 時より朗読会に参加といったスケジュール。

最初に訪れた広島平和記念公園ですが、いつもは静かであろう公園は多くの人で混雑、宗教団体の打ち鳴らす太鼓で異様な雰囲気を感じました。昨今、原爆に対する意識が経年とともに薄れていく感じがして寂しく思っておりましたが、公園内外には若い人も又全国各地、世界各国より集まった方々も多くいて、広島の「平和への思い」と「その熱気」に力をもらいました。

原爆資料館は２度目の訪問でした。新しい東館も大勢の人で混雑、展示は以前と変わらずまた悲惨さも変わりませんでした。しかし広島でどのようにして原爆が落とされ、どのように以前と変わってしまったのか、その様子が最新のＩＴ技術を駆使した映像でより分かり易くなっておりました。来年には本館もリニューアルされ、原爆の悲惨さ愚かさをより強く情報発信できるのではと期待しております。

ホテルに入り夕食後の朗読会、原爆を体験した方々の言葉には映像とはまた違った心に響くものがありました。参加者の方による朗読もあり、何度か目頭が熱くなりました。

２日目（６日）はホテルで６時より食事、バスで会場に７時過ぎに記念式典会場へ到着。

すぐに席の確保に向かいましたが、今年は本館工事の影響もあって一般席の 3,200 席が例年より少なく到着時点で席は既に満席となっておりました。このため仕方なく各自式典が終わるまで自由行動となってしまいました。

８時から始まった記念式典は献花、８時 15 分に黙とうと進み、子供代表の平和への誓い「当たり前の日常を原爆が奪った。しかし諦めず復興に努力した人々によって広島がよみがえった。広島から粘り強く平和を訴えていきます。」とのメッセージに感激いたしました。又、国連代表・中満事務次長の「未だ世界には１万４千発の核兵器があり脅威を与えている。しかし今年７月大きな展開があった。国連加盟国 122 か国によって核兵器禁止条約が採択された。核兵器のない世界はまだ遠いところにあるが、すべての国に対して軍縮に向けての努力を求める」とした宣言には大いに共感いたしました。

一方、この条約に参加しなかった日本、安倍首相の「核兵器禁止への努力」との言葉には虚しさを感じざるを得ませんでした。９時過ぎに記念式典は終了。公園内の見学、昼食後 13 時広島を出発し 18 時 30 分無事、市役所前に帰着いたしました。出発当初は皆さん少々固い表情でありましたが、平和学習を終え、すがすがしく又リラックスした表情に変わっているように私には思えました。今回の貴重な体験を一つの糧にして今後も活動していきたく思っております。ありがとうございました。

親子広島バスツアーに参加して

青木　絢香

私は、初めて広島に行きました。広島はきれいな街でした。72 年前、原子爆弾が落ち、焼け野原になったとは信じられませんでした。でも、原爆資料館を見て、ボロボロになった服や、大やけどをした人の写真を見て、本当にこんな怖いことがあったんだと思いました。なぜ、何も悪いことをしていない広島の人達が、こんな目に合わなければならなかったのでしょうか。ひどすぎると思いました。そして、もし今、私たちの所に原子爆弾が落ちてきたら、遊んだり勉強したりする当たり前の生活が、突然できなくなるのだと思いました。大好きな家族や、友達とも会えなくなるのです。今の平和な暮らしがずっと続くようにお祈りしました。そして、二度と戦争をしてはいけないと思いました。

親子広島バスツアーに参加して

青木　美欧

私は、広島を訪れたことがありませんでした。一度、行きたいと思っていましたので、この親子で、戦争と平和について学べるバスツアーに、小学４年の娘と参加させていただきました。

初めて訪れた広島市内は、きれいに整備された近代都市でした。そして、とても暑く、人や車が行き交う、平凡な日常がありました。風景こそ違いますが、72 年前も、戦争中とはいえ、きっとそうだったのでしょう。そんな広島の人達の日常を一発の原子爆弾が奪いました。

原爆資料館で見た、痛々しい写真の数々。

娘は、最初は興味から、なぜこうなったのかとしきりに聞いてきました。私は、わからないことは、説明を読みながら話して聞かせました。焦げて、穴のたくさんあいた服、この人はどうなったのか。佐々木禎子ちゃんはどうして亡くなったのか。親子でいろいろ話をしながら見ていくうちに、娘は、段々静かになっていきました。何か感じるものがあったのでしょう。夜の、朗読会では、たった３行の中に原子爆弾の怖ろしさを表した詩に、胸がしめつけられました。

今年は、５万人の人が平和記念式典に参加したそうです。海外の人も多くみられました。戦争で亡くなられた方々に黙とうを捧げ、厳粛な雰囲気の中、平和宣言を聞くと、多くの人々の平和を望む気持ちが一つになった感じがしました。

戦争を知らない私たちですが、ニュースで流れる世界の紛争や戦争を見たら、少しでも考えたり、話し合ったりすることが大事だと思いました。娘と、戦争と平和について考えた２日間、とても貴重な経験をさせていただきました。ありがとうございました。

広島のすごさ

穴田　優芽菜

ふんすい一つでもみんなの気持ちがこめられているということが、わたしはすごいなーと思いました。

しりょうかんでは、げんばくにあった人の気持ちがよく分かりました。あつかったり、のどがかわいたり、ほうしゃのうでびょうきになったり、家の下じきになったり、せんそうに関係ないおとしよりや、あかちゃん、女の人などげんばくでいっしゅんに広島をじごくに落としました。親や友人をさがしにいった人もほうしゃのうで死んでしまう。わたしはおかしいと思いました。人としてはとてもいいことをした人も、ほうしゃのうで殺されるのでとてもかわいそうです。げんばくをうけた人は、「もうすぐ自分も死んでしまう」と分かっていても、生きぬこうと、がんばっている人、すごいと思います。それにわたしは一番すごいなと思ったことがあります。それは今の広島です。げんばくが落ちてめちゃめちゃになっても広島はあきらめず、大きいたてものでも半年くらいかかるのに今ではしょうてんがいなどがいっぱいたっている、にぎやかな県になっているからです。広島は固い絆でむすばれているなーとわたしは思いました。

広島ツアーと平和

穴田　雅彦

今年、２度目の応募でやっと親子広島バスツアーに参加させていただくこととなりました。

初日に広島に到着して最初に見た原爆ドームは、過去に何度か見たそのままのいで立ちでそこにありました。これを見ただけで背筋がシャンとなって、ただの旅行でなく平和について考える旅行なんだとあらためて思いました。その後、折り鶴奉納や爆心地の島外科や平和記念資料館などいろいろ見させてもらい、夜にはボランティアの方による朗読会もあり、次の日の平和記念式典へ気持ちも高まりました。

その式典は工事の関係で席が確保できず、残念ながら立ち見となってしまいましたが、広島市長や県知事、安倍首相や国連事務総長など、今までぼんやりテレビのニュースで見ていたものをリアルに見て、献花や黙とうにも参加出来て感無量でした。

この大満足で充実した２日間は、寺前さんをはじめとする西宮市の方や川内さんら被害者の会の方のとても丁寧で気配りされたスタッフのおかげだと思いました。ありがとうございました。

さて、このツアーに参加させていただいたことで、恥ずかしながら真剣に『平和』につい

て考えました。世界中のほとんど誰しもが、戦争はダメ。とわかってるはずです。でも、世界から連日のようにテロによる被害のニュースが聞こえてくるし、近くの国もミサイルの発射実験をしたりと平和と真逆なことが起こっています。

こんな世界でちっぽけな自分に何ができるのか、何をすればよいのか考えました。結論は、向こう(広島)で何度も見聞きしましたが、「伝えること」そして、みんなで(あるいは各自)平和について考えることだと思いました。人それぞれが、伝え続け、考え続け、それぞれが出来ることをする。このことこそが、実は唯一平和への道なのだと思いました。

わすれられないせんそう

池田　早来

夜、ろうどく会の人がきて話をしている時や、ＤＶＤを見ている時が一番心にしみこんできました。なみだが流れてくる時もときどきありました。

８月６日のきねん式てんの時、数えきれないほどの人たちがおこしになっていました。安倍そうり大臣もきていたのでおどろきました。もくとうをしている時は、なくなった人の顔をそうぞうしていました。

広島で、きいたこと、見たこと、知ったこと、感じたことをきていない家族や友達に教えたいと思いました。

親子広島バスツアーに参加して

池田　雪江

今回参加させていただいたのは、６年生の長女が修学旅行で広島へ行き、悲惨な現状を見て知って戦争・原爆をなくし、平和を願う事と強く言っていたからです。それまでの私は、写真やテレビで見るくらいで深く考えた事がありませんでした。

そんな軽い気持ちで向かえたツアー。バスから降りると、少し違う恐ろしさと悲しみの空気が漂っていました。そして原爆ドーム、資料館、朗読会、平和記念式典、目を背けたくなる程の衝撃でした。言葉が出ない、なぜこんな事するの？悲しみしか生まれないのに。娘が伝えたかったのはこの事かと実感しました。二度とこんな悲しい事が起こらないよう、平和な世界になれる事を願っています。

これからもこのツアーが継続されます事を願います。２日間ありがとうございました。

親子広島バスツアーに参加して

井原　今日香

親子広島バスツアーに参加することになり、お母さんと千羽づるを折りそれを持ってお父さんと広島へ行きました。

私は、今までおじいちゃんとおばあちゃんから広島の原爆の話をすこしだけ聞いたことがあったけど、あまり深く考えていませんでした。

今回、この親子広島バスツアーで、平和記念資料館を見学したり、被爆体験記朗読会でお話を聞いて、二度と戦争はしてはいけないと強く思いました。

すべての人が平和で楽しくくらせるようにと思いました。

来年の修学旅行で広島へくる時は、世界平和を願いながら、千羽づるをおりたいと思いました。

親子広島バスツアー

井原　京介

今回、親子広島バスツアーに参加する機会を頂き、原水爆禁止西宮市協議会、西宮市職員、被害者の方々、有難うございました。

小学５年生の三女との参加で、2009 年の長女（当時小学５年生）との参加以来２回目の親子広島バスツアーでした。

被爆二世の私ではありますが、娘に対し何の話も出来ていなかったのですが、実際に平和記念資料館で親子で見たり感じたりしながら共に学ぶことが出来ました。ホテルでの被爆体験記朗読会では、原爆詩の冊子を閉じて聞いて下さいとのことで、地元ボランティアの方の声を直接聞いて何かを感じとることの出来た三女の姿が印象的でした。

親子で平和の大切さ、戦争の無意味さを考える時間を与えて下さった事に大変感謝しております。２日間、有難うございました。

原爆の悲惨さ

岡田　かれん

私は、なぜ戦争をするのかをふしぎに思います。戦争が無かったら原子爆弾だって落とされなかった。戦争を終わらせたいために落として、なんの罪も無い子供や大人たちが次々と亡くなっていって、生き残った人ものちのち原爆症にかかって、この１年間で亡くなった被爆者が 5,530 人で目をうたがいました。友達や家族や兄弟が亡くなってどんなに悲しいかと思いました。

広島に行くまでに原爆のことを書いた本をたくさん読んでいて一番『はだしのゲン』が原爆の悲惨さが伝わってきました。マンガなので絵が入っていたのでよくわかりました。実さいに、しりょう館の展示物や写真を見て『はだしのゲン』の絵と同じで、びっくりしました。

戦争をけいけんしてそれを伝える人がへってきているので、今度は戦争のことを知った私たちが正しく伝えなければならないと思います。

親子広島バスツアーに参加して

岡田　恭子

毎年８月６日はテレビで平和記念式典を見ているだけだったのが、今年は実際に参列する機会に恵まれ、とても貴重な経験をさせていただきました。

72 年前と同じ暑い夏の朝、同じ場所に立つことで被爆された人々へ思いをはせることが出来ました。遺族や被害者の方々を目のあたりにし、いまだに悲しみ、苦しみは続いていることを改めて感じました。また、昨年のオバマ大統領訪問のせいか、外国人が想像以上に多いことに驚きました。世界の人々が広島に関心を持って、平和への思いを広めていってくれることを願います。

朗読会では、自分たちと同じ普通の生活をしていた人々、子供たちの悲惨な経験が語られ、非常に印象深かったです。子を持つ親となり昔と感じ方が違って、涙が出そうになる詩もありました。

「天災は防ぎようがないが、戦争や原爆を投下するのは人がすることなので防ぐことができる。」「皆が笑顔でいられる平和を願う。」
とおっしゃった言葉が心に残ります。そして戦争のむごさ、原爆の怖さを次の世代に伝えたいという熱意が伝わってきました。

子供にも特別な８月６日となり、家でも戦争について考えを述べるようになりました。

私も、核問題を含め混沌とした世界情勢の中で、原爆の正しい知識、戦争の真実を子供たちに伝えていかなければならないと感じました。

親子バスツアーに参加して

奥村　咲太郎

ぼくは、原ばくドームに行ってびっくりしました。

さいしょはどんな所だろうとわくわくしていました。しりょうかんや平和き念しきてんなどにいきました。そして、いろいろなことを学びました。

平和はふつうだと思っていましたが、戦争はこわいと思いました。もっと、平和のこと戦争のことをもっとしりたいです。

また、平和はどんなことだろうと思っていたけど今が平和だと思いました。でも、この地球上にまだかくへいきがあると知りました。そのかくへいきがもしもおとされれば、またせんそうがおきてしまいます。そしてつみもない人がしんでいくことはおかしいと思いました。

これからもせんそうがおこらないようにどうすればいいか考えていきたいです。

親子バスツアーに参加して

奥村　真名美

72 年前の８月６日の８時 15 分、広島に住んでいた方々の日常生活が一瞬にして失われた日。原爆ドーム、爆心地を見学し、現在の緑あふれる素敵な町並みを眺め、人々の何気ない会話を耳にしながら、このあたりまえの平穏な日常が、平和な日々が、一つの原子爆弾によって一瞬にして壊されたのだと思うと、胸が痛くなりました。

夜の朗読会では、当時、小さかった子が数年後、小学生になって、原爆が落とされた当時の思い、様子をありのまま綴られた詩を中心に朗読して下さいました。家族を一瞬で失うこと、あっという間に１人ぼっちになるということ、戦争というのは、そういうことなのだと改めて感じました。私にも３人の子がおり、今回は次男と参加しました。親子で一緒に朗読を聞いて、平和の大切さ、家族の絆を考えさせられるきっかけとなりました。

２日目は平和記念式典に参列し、献花させていただく貴重な機会をいただきました。テレビでは毎年、見ていましたが、実際に現場で、セミの鳴き声が響き、猛暑の中で厳粛な雰囲気を感じ、１分間の黙とうを捧げる中で、二度と戦争をおこさせない、また、平和の尊さを私たちは次の世代に伝えていく使命があるのだと決意しました。

有意義な２日間を親子で過ごすことができ感謝の思いでいっぱいです。これからもこのよい企画が続き、多くの方がこのよい機会に恵まれますように。本当に有難うございました。

初めて行った広島

木下　晨

広島平和記念資料館では、おどろきとこわさでいっぱいでした。一番びっくりしたのは広島に投下された原子爆弾リトル・ボーイの大きさです。たったこれだけのおおきさで広島の町が、かいめつ状態になってしまいました。

「しまいます」ではないのです。「しまいました」なのです。これは現実で歴史上に起こったことなのです。

このことから平和の大切さを学びました。

これからは正しい歴史を学び、今自分が出来ることを考えていきたいです。

72年前のあの日を想い、子供たちに残したいこと

木下　陽平

１．はじめに

自分が子供のころは、平和であることが当たり前でした。

いま、３児の父となり、また職業上海外で外国の方々と仕事をする機会があり、多くの外国の友人を持つ者の身として、改めて平和とは何か、子供たちの為に何が出来るのかを考えるようになりました。

そんな矢先に、親子旅行への参加の機会を頂き、５年生の長男とありがたく参加させて頂きました。

２．原爆ドームの下で72年前を想い

36度を越える真夏日の中、初めて平和記念公園を訪れ、原爆ドーム・原爆の子の像・平和記念資料館の様々な資料を拝見した後、72年前のあの日もこのように晴れた暑い日だったのか、写真で拝見した活気のある街の中で人々が１日の生活を始めようとしていたのか、そんな中、突然の悲劇に襲われたのかと胸が張り裂けんばかりに痛みました。

長男はというと、平和記念公園での見学よりも、夕方開催頂いた体験朗読会における数々の詩・体験記の方がよほど印象強く、それによって当時を想像したようで、持って帰って来た資料は生々しく改めて開くのも躊躇するほどでした。

うまく言葉には出来なかったようですが、良い勉強をさせて頂いたようでした。

３．今回の旅行と自分を照らし合わせて子供に残したいもの

自分が職業柄、実際に海外の方々と触れ合い、現地に赴いて感じることは、皆生活環境も歴史も民族も宗教も文化も異なる背景を持った人間が世界を形成しているということ。そして世界がインターネットで繋がり、資本主義経済が光の速さで世界を包み、それによって人々のみならず企業も国家もが自らの富を自らの思惑で得ようと様々な活動を繰り広げているため、一歩間違えれば奪い合いが起こりかねない（というより常に起きており、未熟な教育環境や貧困により各地での紛争は絶えない）状況にあります。

そのような激動の時代に生きる子供たちには、自らの目に広島を焼き付け、原爆の恐怖をいつまでも忘れずにいて欲しい。そして、自分がおかれた現在・現時点を歴史や地政学から正しく学ぶこと、そこから自分なりの平和という哲学を持って世界の人々と調和して生きてゆく力をつけていって欲しいと感じます。

昨年、現役の米国大統領として初めて広島を訪問されたオバマ元大統領のスピーチを読み返し、その勇気と行動力、それに平和に対する思いを改めて賞賛し、子供たちにもそのように国家や民族の枠を超え、いち人間としてやさしく正しい想いを持った大人になってほしいと感じた次第です。

４．最後に

最後になりますが、このような非常に勉強になる会を主催頂いた西宮市の事務局の皆様ならびに同伴頂きいろいろと教えて下さった原爆被害者の会の皆様には改めてお礼申し上げたいと思います。

また、まだ広島未訪問の長女・次女とも、その時が来たら共に訪問して勉強したいと思います。

ありがとうございました。

参加者自らが折った折り鶴を奉納しました

親子広島バスツアーに参加して

工藤　笑子

バスツアーに参加して思ったことは、やっぱりわたし自しんがたいけんしたことではないので、よくわからないけどしりょうかんや式典に参加したり、ひばく者の人たちからの話をきいていると、やっぱりたいけんしていなくてもげんばくのときのたいへんさや、かなしみやくやしさがとてもよくつたわってきました。

このバスツアーにとうせんしたときは、最初あたらないだろうなあと思っていました。でもこん回あたって、びっくりしました。

でもとてもいいけいけんになったと帰りのバスの中でもそう思いました。

やっぱり平和が一番なんだなとそのときおもって、平和のありがたさをもっとほかの人にも知ってもらいたいです。

親子広島バスツアーに参加して

工藤　守

私は高校卒業までを広島で過ごしました。今回、長女が小学校から持ち帰った広島バスツアーのチラシを見て、子供に 72 年前にヒロシマで起きたことを伝え、自らも平和への思いを新たにする良い機会ではないかと思い、長女と応募することと致しました。

バスツアーで１番心に残ったのは、何といっても平和記念式典の参列です。被爆当日と同様に真っ青な空から強い朝日が差し込む中、長女と公園に足を踏み入れた瞬間、周りの空気が厳粛なムードに一変しました。道端に沢山のボランティアの方がいます。ある方は足の不自由な方のために車椅子で会場まで案内する係、ボーイスカウトや小学生、中学生が献花の花や冷たいおしぼりを配っています。世界から沢山の方が集まっているにもかかわらず大勢の参加者が整然と会場に集っていくのを目の当たりにしました。広島市民がみんなでこの式典を作り上げているのだと思いました。かつての大戦の記憶は我々の日常の中でほとんど見られなくなりましたが、広島のこの時、この場所ではかつての悲惨な大戦、原爆の記憶が生きていると実感しました。式典会場は休日ということもあり満席でしたが、椅子席のすぐ後ろで娘と立って参加しました。式典で原爆投下時刻の８時 15 分黙祷をしました。涙が出ました。

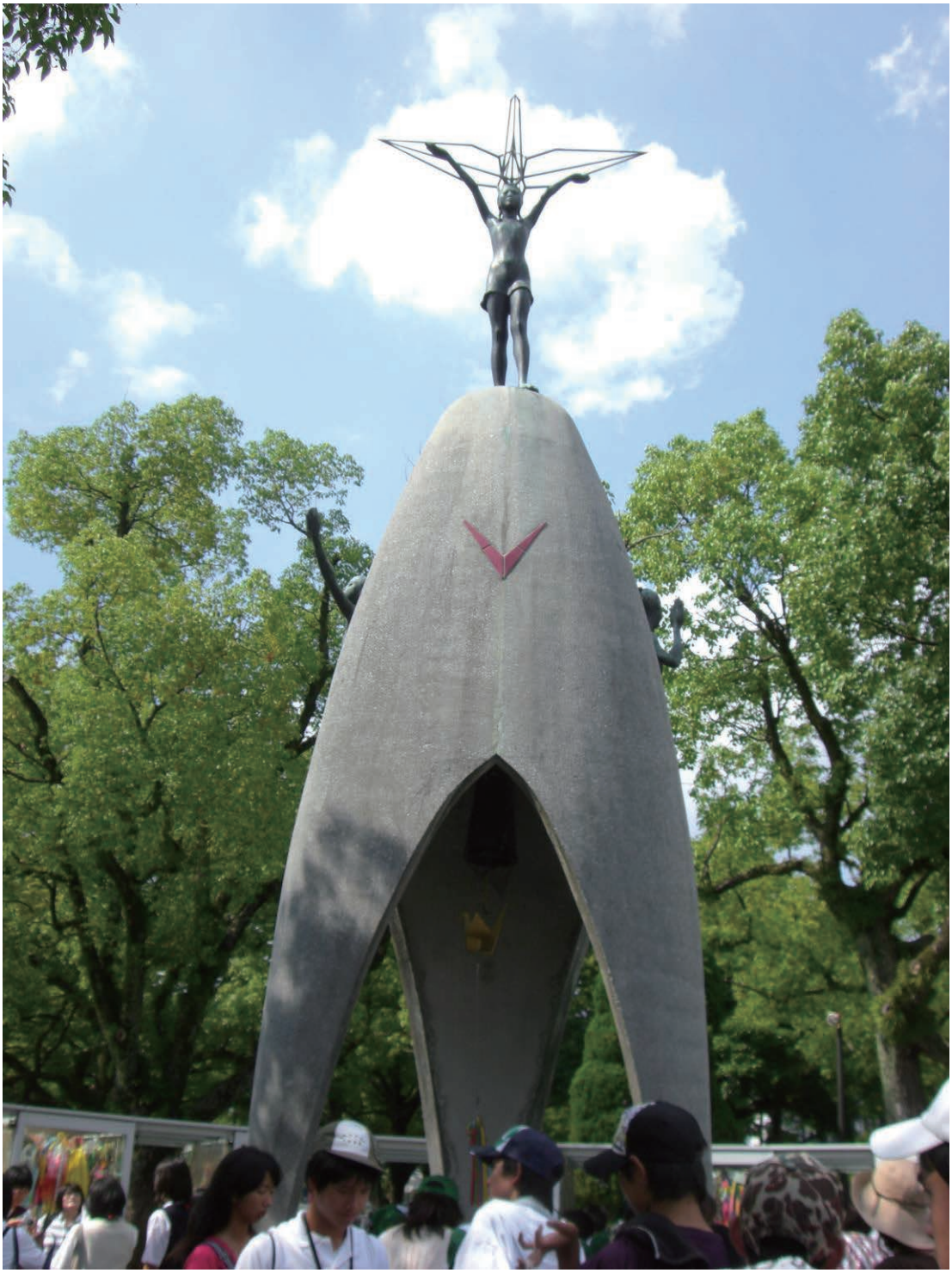
前日に見学した平和記念資料館に一枚の小学校のクラス写真が展示されていました。それは原爆が投下される以前に撮影されたもので、学校の先生を中心に幼さの残る生徒たちがみんな底抜けの笑顔で写っています。今と変わらぬ市民の幸せが戦前に撮られたその写真の中にはありました。しかし、原爆が投下された瞬間、その幸せが地獄に変わってしまった。心の底から笑っていた人間が次の瞬間真っ黒焦げになり、生きていても言葉すら発せない。生命が感じ得る最大、最悪の苦しみをその身に受ける。余りにむごいと思いました。

また、前日の晩に、ホテルで被曝体験記朗読会がありました。ボランティアの方と一緒に被爆者の方の心の叫びである体験記を朗読するとても素晴らしい会でした。現在、被爆者の

方々も高齢となり体験も風化しつつあります。体験記を親子で朗読することは原爆の記憶を次世代へ継承していく大切な取り組みだと思いました。

娘にとっても、初めて平和記念式典に参加し（１時間本当にご苦労様)、被爆者の方々の体験を聞き、原爆ドームをはじめとした史跡に触れた経験は大変有り難い経験になりました。

ヒロシマの悲惨な記憶を忘れず、私たち一人一人が人の命の大切さ、自分のことだけでなく相手の尊厳を思いやることの大切さを理解し、日々実践していく。その積み重ねが平和への道なのだと痛感した２日間でした。ありがとうございました。



原爆の子の像

広島バスツアー

倉金　環

ぼくは広島へ行くのは初めてでした。原爆ドームがすごかったです。
骨組がむきだしで　恐ろしかったです。
平和記念公園に行ったとき、超大量に、千羽鶴があったので驚きました。
夜になると怖くて２時間くらいしか眠れませんでした。
戦争がなくなれば良いと、思いました。

親子広島バスツアー　平和・非核学習の旅　に参加して

倉金　希帆

広島を訪れたのは２度目。初めての広島は小学校６年生の修学旅行でした。
記憶を辿って蘇るのは、平和記念公園の整備された美しさと静寂です。
母親となった自分が、小学校４年の息子と訪れて今何を思うのか、そして息子は何を思うのか、とても興味深く思い参加を希望しました。
平和記念資料館、慰霊碑、被爆建物、朗読会。
すべてが悲しく虚しく辛いものでした。
私と同じ景色を見ている息子は何だか無感動に見えましたが、夜眠れず泣きだし、こわいと一言。
息子とともに平和を考える第一歩だと感じました。
原爆投下がなければ…戦争がなければ…
平和を考えることができるのは、悲惨な過去の経験があったから。
広島はとても美しい場所でした。とても哀しい場所でした。
平和について深く考える場所でした。
バスツアーを夏の思い出にとどめず、核廃絶に向けた取り組みに対しての世界の動向に注目していきたいと思います。
この機会を与えて頂いたことを心より感謝いたします。

広島バスツアー

坂口　迅風

ぼくは、初めて広島に行きました。
戦争の事、原ばくの事を知らずに参加しました。
資料館や、朗読会で、戦争や原ばくでたくさんの命がうばわれたことを知りました。
とても勉強になりました。

親子広島バスツアー

坂口　真生

息子と２人で参加しました。
私自身、小学生の修学旅行で広島に行きましたが、あの当時に感じた感覚とはまた違っていました。
資料館での、展示物や写真など、見ているうちに涙が出そうになりました。
改めて、戦争、原爆の恐ろしさを感じました。
この機会がなければ、平和記念式典にも参加する事さえなかったと思います。
あの、会場でのみんなが一つになった黙祷。
生涯忘れる事はないと思います。
親子共々、貴重な体験ができました。
このツアーに参加させて頂き本当に良かったです。
ありがとうございました。

原爆死没者慰霊碑での献花

広島バスツアー参加して

下田　蒼真

僕は今５年生で来年６年生になって、修学旅行で広島に行きます。初めて広島に行って、原子爆弾の怖さ、危険さをより深く学びました。平和記念公園へ行って、前日に折った折り鶴を捧げて、平和への思いも、さらに強くなりました。平和記念資料館の東館だけでも、衝撃的な絵や物があり、たったひとつの原子爆弾によって、広島市の何万人もの方々が、一瞬にして亡くなり、放射線による後遺症などでも、たくさんの人が亡くなりました。

この苦しさ、恐ろしさは、実際に体験された方々が、一番よく知っているので、二度と原子爆弾などの核爆弾を、使わない、使わせない為に、この体験を、後世によく伝えていかなければいけないと、思いました。そして、平和への思いも、さらに強くなりました。

広島バスツアー様、２日間誠にありがとうございました。

２度目のヒロシマ

下田　真美

今回、５年生の息子とツアーに参加しました。小学生のこの時期に、原爆ドームと原爆資料館を見学させてやりたい、との願いが叶いました。

私自身、初めてヒロシマに連れて行ってもらったのは９歳の時、唯一の家族旅行でした。原爆資料館で見学した時の衝撃を今でも忘れません。銀行の壁に焼きついた人の影、資料館での衝撃とともに、すっと背筋の伸びるあのひんやりとした感覚･･･。大人になってからも、毎年８月６日の８時15分には、なるべくテレビの前で手を合わせるようになっていました。

当時は、『原爆は怖い』という衝撃の方が強かったのかも知れません。仕事、子育てをしながら、日々生活をしていく一人の大人になって、２度目のヒロシマには、原爆の直前まであった、今の私と同じように日々の生活を送る人々の姿を強く感じました。だからこそ、人々の日常を瞬時に死の底に追いやり、愛おしい人々を奪い、苦しみを与え続けている原爆、戦争の脅威を、もっともっと伝えなくてはと思いました。

2017年、８月６日の広島には、外国人観光客の姿がたくさんありました。熱心にヒロシマのことを知ろうとしていました。平和のために、ここ広島からの発信が続いています。大人になった自分も、恐怖を感じるだけでなく何らかの発信ができると。

今回のツアーで、当時自分をヒロシマへ連れてきてくれた親の思いも分かりました。父はもう亡くなりましたが、やはり次の世代へ伝えたかったのだと思います。今の私も同様です。息子はどのように感じたかは分かりませんが、私も毎年８月６日にヒロシマへ思いを馳せ、平和への感謝と願いを再発信することをしていきたいと思います。

ツアーの出発前に、準備不足だったため、慌てて鶴を折ったのですが、職場の人達や家族に協力してもらいました。図らずも、よりたくさんの仲間に、“８月６日ヒロシマ”を意識してもらえたことに感謝しています。

こうした、平和・非核学習の旅を企画、実施してくださって、参加できたことにお礼申し上げます。これからも続けてください。お世話になりました。ありがとうございました。

原爆ドーム

広島バスツアーに参加して

滝沢　実久

私は５月に修学旅行に行ったので、今回で２回目の広島訪問となりました。その時と比べて、人の多さに驚きました。外国からもたくさん人が来ていて、この日は特別なんだな。と感じました。

今回は、修学旅行で回り切れなかった公園内の慰霊碑の説明も聞けました。たくさんの人々がこの場所で一瞬にして亡くなり、犠牲者の多さにショックを受けました。

夜は朗読会がありました。朗読会に参加するのは初めてで、迫力があり、恐怖、苦しみ、悲しみが伝わり心に響きました。

次の日の朝は平和記念式典に参列しました。テレビのニュースで見たことはありましたが、参列は初めてです。その場で平和宣言や内閣総理大臣のあいさつなど式典を自分の目で見て、耳で聞けたことは、とても良い貴重な経験になりました。そして、一分間の黙とうの時は、犠牲になった多くの人々の気持ちや世界が平和であることを願いました。

戦争の恐ろしさ、平和の大切さをたくさんの人に知ってもらいたいです。今回のツアーで改めて感じたこと、学んだこともたくさんあったので、夏休みの自由課題としてまとめてみました。学校のみんなにも知ってもらいたいです。修学旅行に行ったとき被爆したアオギリの種から芽を出した苗をもらって帰りました。６年生で育てています。大切に育てながら、ツアーで感じたこと、広島の出来事を思い出し平和を願い忘れずにいたいです。

そして、世界で今もなお戦争をしている国や核爆弾を持っている国があります。そんな国がなくなり世界中がもっともっと平和になり、平和が続くことを願っています。

このツアーに参加できて、良かったです。

ありがとうございました。

親子広島バスツアーに参加して

滝沢　淳子

私は、平和記念式典への参列も広島へ行くのも初めてでした。子供の頃の授業や、以前の仕事でも旧軍人の遺族の方とかかわる事があり戦争、原爆について恐ろしさを知っていたつもりでしたが、今回の親子広島バスツアーに参加して、改めて平和について考えさせられ、戦争、原爆についての恐ろしさを実感しました。

平和記念公園内の慰霊碑等をいくつか案内していただいた時には、「ここでは何百人」「こっちは何百人」と犠牲者の人数、当時の状況を聞くたびに胸が苦しくなりました。友達・家族とバラバラになり、こんな状況、私には耐えられないと思うほどでした。

このツアーより先に、娘が修学旅行で広島に行きました。修学旅行前には、平和学習の授業があり、その時ちょうど授業参観で私もその授業の様子を見ていました。「平和とは何か・・・」「平和とは、幸せなこと。喧嘩しないこと。おなかいっぱい食べられること。笑顔でいられること。戦争がないこと。」と沢山の意見が出ました。「平和とは何か・・・」と聞かれた時、いま現在が平和すぎて一瞬「何だろう？」と思ってしまいました。世界に目を向けると、まだまだ争い事が消えません。核保有国もたくさん存在します。今ある日本の平和は、過去の戦争、原爆の犠牲になった多くの人々の苦しみ悲しみがあり、現在があるのだと感じました。このことは、世界中の人に知ってもらい子供たちに語り継がなければいけない事だと強く感じました。

式典当日、とても感謝する出来事がありました。私と娘は、式典前に献花を済ませ、テント脇のロープが張られたエリアに立ち開式を待ちました。式が始まると、前に立っていた年輩の男性が娘に「この場所の方がよく見えるよ」と場所を譲ってくださりました。「私は、広島市民で毎年ここに来ています。私より若い方に見て帰ってもらいたい。遠くから来てくれてありがとう。」と話してくれました。この優しさを受け、式典の様子を見られたことは、娘の心の中に一生残るだろうと思いました。そして、この日を忘れず平和を願い続けてもらいたいです。

とても貴重な２日間でした。ありがとうございました。

平和非核都市宣言碑の前で出発式

広島平和記念式典

田中　友理愛

私が、親子広島バスツアーに参加したいと思ったのは、平和記念式典に参列したかったからです。

行く前は原爆についてあまり知らなかったのですが、平和記念資料館で原爆が落とされた時の町の様子を見て、遠い場所まで光と爆風が届いていたのがとても怖かったです。

平和記念式典の時はとにかく暑く、原爆が落とされた日も、とても朝から天気がよく暑かったそうです。その暑さの中、原爆が落とされた時の地上の温度は、3,000 度～4,000 度になったそうで、どれだけ暑かったのか考えられません。

平和記念公園には、大きなふん水がありました。被爆者の人たちがそのふん水で少しでもあつさがなくなるといいと思います。

これからも、平和について学習していきたいと思いました。

二度目の広島

田中　真由美

今回、このバスツアーに小学校４年生の娘と２人で参加致しました。

私自身、中学生の時に修学旅行で広島に行き原爆ドームを見学した事がありますが、今回は昔とは違う思いで見ていました。又、原爆ドーム（当時は広島県産業奨励館）は爆心地に非常に近かったにも関わらず、なぜ倒壊しなかったのかという疑問もありました。いくつか考えられる理由の一つに、真上からの爆風に対して耐力の弱い屋根を中心につぶされ、厚く作られていた側面の壁は完全には押しつぶされなかったからということでした。爆風の圧力は１平方メートルあたり 35 トン、風速は 440 メートルという凄まじいものだったので建物内にいた人は、全て即死し建物内は熱線による火災で全焼したということです。

１日目の夕食後、被爆体験記朗読会では、どの体験記や詩も、これは 72 年前に実際に起こった事なんだと思うと、言葉を失いました。

２日目の８月６日、平和記念式典が始まる前に、ボランティアの方に花を頂き、心を込めて献花することができました。午前８時 15 分になり、同じ様な晴天の暑さの中、この地に原爆が落とされたんだと思うだけで身体が震えました。

最近になって、今まで固く口を閉ざしてきた高齢の被爆者の方々が、後世にこの悲惨な事実があった事を伝えなくてはと、勇気をふりしぼり体験した事を話しはじめていると聞きました。私たちも、戦争の記憶が薄れていっている今こそ、人々に戦争の怖さと平和の大切さを伝えていかねばならないと強く感じました。

今回のバスツアーで、娘も戦争と平和について考える第１歩をふみ出せたのではないかと思います。
帰ってきてからも、原爆に関するテレビのドキュメンタリーなど、前にもまして見るようになりましたし、核の事も色々、調べてみたいと思っています。
２日間、貴重な体験をさせていただき、関わって下さった全ての皆様に感謝致します。

親子広島バスツアーに参加して

野武　耕助

僕は、広島に一回行ったことがあります。その時に資料館にも行ったのですが、本館ではとても信じられないようなことが書かれていました。また、とてもひどいことに「本当に今から 72 年前に広島や長崎で原子爆弾が落とされたのだ」と、思うと恐ろしくてなりません。
なぜなら、今はこんなに平和だからです。
この平和があるのは、昔の被爆体験をした人が今に言い伝えてくれているからだと思います。
出前朗読会では、田中清子さん達の被爆体験記を聴かせていただいて、とてもショックを受けました。
改めて絶対に戦争なんておこしてはいけないと思いました。

親子広島バスツアーにさん加して

野武　由紀乃

私は、なぜ親子広島バスツアーにおうぼしようと思ったかと言うと、広島に行ったことがないからです。
資料館では、学んだことが、２つあります。
まず１つ目は、原子ばくだんは、おそろしいものだと言うことです。なぜかと言うと、一発のばくだんで、広島をはかいするくらいのいりょくがあるからです。
そして、２つ目は、ばくだんの光のこわさです。なぜかと言うと、かたいビー玉や、ビンをとかすくらいのいりょくがあるからです。
親子広島バスツアーで思ったことがあります。それは、戦争は、けっして二度とおこってはいけないということです。

親子広島バスツアーに参加して

野武　恵次郎

今回、幸運にもツアーに当選して、親子で原爆の被害にあった現地広島へ行くことが出来ました。

今回、参加するきっかけになったのは、小学４年生の娘が学校からツアーのチラシを持ち帰ってきた事からでした。娘には原爆の事を妻に「まだ早いのでは？」と言われ、今まで詳しく話してはいませんでした。しかし今回、娘自身が興味を持ちチラシを持ち帰ってきたので、原爆の事を伝えるいい機会なのではと思い応募し当選させて頂きました。

余談ですが、上の子供（中学１年の長男）も当選して同行させましたが去年に修学旅行に訪れたので、多くを語らずに長男自身で改めて感じてもらうことにしました。

私自身は小学校高学年時に一度、父親に連れられて原爆ドームや資料館を訪れた事があります。その時に見たドームや資料にとても衝撃を受けて「原爆という恐ろしい兵器を二度と使ってはならない！」と心に刻み付けた記憶があります。

ツアー初日に広島に到着した時の印象は「西宮より暑い場所だな」と感じました。

ただ、平和記念公園はその名の通り緑の多い茂った穏やかな公園でした。本当に 72 年前にあの恐ろしい地獄絵図のような惨状があった場所とはとても思えない場所でした。

次に資料館を訪れて、いまいち状況が掴めていない娘にいろいろ詳しく説明してやりました。娘も少なからず衝撃を受けたようで食い入るように資料の数々を眺めている様でした。後に尋ねると、特に被爆した人達の惨い火傷の写真が印象に残ったとのことでした。

夜に被爆体験記朗読会が行われ、実際に被爆された方の悲痛な体験記を詩の形で聞きました。私自身体験記を聞くのは初めてで自らも深い心に刺さる衝撃を受けました。

もし私が被爆された人の立場だったら心が耐えられるだろうか・・・と鎮痛な気持ちになりました。朗読会は被爆の恐ろしさを生で後世に伝えるためにとても不可欠な行事だと感じました。

２日目には式典に参列して、慰霊碑に献花をしてお祈りを捧げ、改めて戦争のない平和な世の中を続けていくよう努力していくことを心に誓いました。

最後になりますが、私自身の一番の感想として、今日生きている人々ひとりひとりが、二度と原爆や水爆を使用しない、作らない世の中を築いていかなければならないと改めて心に深く感じました。このツアーに参加させて頂き大変貴重な体験をさせて頂いた、市の方々や被害者の会の方、その他スタッフの方々に感謝しております。

この度はありがとうございました。

親子広島バスツアーに参加して

樋村　莉彩

私が広島に行きたくなったきっかけは、ふたつ上の姉が今年、修学旅行で広島に行ったことと、学校でかりた「はだしのゲン」という広島で原ばくにあった男の子の本を読んだことです。本の中に出てくる出来事は本当にあったことなのか、自分の目で確かめてみたくてこの親子広島バスツアーに参加しました。

広島に到着すると町にはたくさんの人がいて、りっぱな建物が建っていて、まさかここであんな悲さんなことが起こったとは思えませんでした。そこへ突じょあらわれた原ばくドーム。バスを降りるとすぐ見えたので驚きました。平和記念公園の中に入って折り鶴を飾った後、急に鼻血が出てなかなか止まらなかったので、私は皆と一緒に原ばくドームのそばまで行くことはできなかったけれど、遠くからでもその悲さんな様子はわかりました。

次に行った平和記念資料館（東館）では、原ばくが投下される様子からその後の広島の様子を写真や映像で見ることができ、ここで私は「あぁ、「はだしのゲン」の世界は、本当にこの広島であった出来事だったんだな」と感じました。またこのあと長崎にも原ばくが落ちて、何万人もの人が亡くなったことを私はここに来て初めて知りました。広島に行っていなかったら知ることができなかったことをたくさん学ぶことができたので、このバスツアーに参加することができて本当に良かったです。

親子広島バスツアーに参加して

樋村　恵津子

「平和を考える場所、広島。平和を誓う場所、広島。未来を考えるスタートの場所、広島。」

2017 年８月６日、広島に原子爆弾が投下されてから 72 年経った平和記念式典で、こども代表の子がゆっくりと読み上げたこの平和への誓いが、バスツアーから帰宅してからも私の心を捉えて離しません。

私が小学生の頃、戦争について勉強し、修学旅行では広島へ行く予定でしたが、両親の仕事の都合で引っ越すことになり、行くことができませんでした。大人になってもずっとそのことが心残りで、毎年テレビで放映される平和記念式典を見るたびに、今のこの平和はたくさんの方々の犠牲の上にできたものであるということを未来永劫、忘れない為にも、いつか広島を訪れたいと思っていました。そんなとき４年生になった娘が学校からもらってきた親子広島バスツアー募集のチラシを見て、娘が戦争について興味を持ち始めたことを知って、同じ転勤族の家に育つ娘に私と同じ思いをさせたくないという思いと、私も一緒に行けるという思いが重なって、ツアーへの参加を申し込みしました。

多数の応募の中、参加させてもらえたことに感謝をしながら降りたった広島の町はとても暑く、突然目の前に広がった原爆ドームには衝撃を受けました。平和記念公園には多くの慰霊碑や記念碑があり、戦争を経験した方々の想いがたくさんつまっていることを感じました。平和記念資料館では原爆投下後の悲惨な広島の状況、焼け焦げた遺品を目にして、もしこれがわが身に起こったことだとしたら…もしこれが我が子だったら…と思うと涙があふれてきました。被爆体験記朗読会ではボランティアの方々を始めとして、戦争経験のある無しに関わらず広島に住む方々が戦争で受けた記憶を大事に後世に伝えていきたいという想いを受け取りました。そして２日目には平和記念式典へ参列するという貴重な体験もできて心に一生残る旅行になりました。

今回の旅行で、式典に参列または献花をする外国人を多く見かけ、この広島への、原子爆弾への、外国人の関心の高さに驚きました。こども代表の子の言葉にもあったように、まさにこの広島は、世界中の人々が平和について考え、誓い、未来を考える場所なのだと思いました。

最後に、引率して下さった西宮市職員の方々、原爆被害者の会の方々、大変お世話になりました。途中予期せぬアクシデントもありましたが、最後まで優しいお心遣いが嬉しかったです。そしてこのような貴重な体験を親子でさせて頂きましたことを心から感謝申し上げます。今後も西宮市の多くの親子がこの貴重な体験をできることを願っています。

原爆ドーム前での参加者の皆さん

初めての広島

宮長　真尋

今回、私は初めて広島に行きました。
まず、平和記念式典に出席できなかったのは残念だったけど、けん花できたのは嬉しかったです。平和っていうのは、何か特別なことをするでもなく、ただただ自分の思うままの「ふつう」で生きていることなんだなあと思いました。このツアーは、平和と向かい合わさせてくれるツアーでした。
暑かったし、ちょっとしんどいときもあったけど、とても楽しかったし、良い経験になりました。
自由時間に路面電車に乗れたし、道に迷ったときも、とても親切に教えてくれました。
つまり、広島の人はみなさん、とてもよい方でした。それに、とてもきれいな人ばかりでした。
本当にありがとうございました。

娘との広島バスツアー

宮長　義人

今回のツアーへのきっかけは、妻の方が、応募をして参加させて頂く事になりました。父親としてこの先、娘と２人での旅行も、なかなか難しいのではないかと思いましたし、喜ばしい貴重な経験ができました。
広島の方へは祖母がおりましたので何度も行った事はあるのですが三原市という所で、なかなかその先の広島市までは行く機会もなく当然、今回の広島平和記念資料館、原爆ドームへ足を運んだ事もなく今までとは違った初めての広島を体験できました。
しかも式典に参加させて頂く事もでき２人で感動しました。
世界各地から式典に参加をされる方々、その人数にも驚きました。
テレビなどでは何度も目にした原爆ドームを間近で見て、世界で初めての核をまるで実験のように投下をされた広島、一瞬にして街も人も何もかもを消し去った核を恐ろしい兵器なのだと改めて思い知らされました。
これほどまでに悲惨な状況を作ってしまう核を使うことは二度とあってはならないと親子で願っています。
この親子広島バスツアーはこれからも平和非核都市宣言を行った西宮市には続けてもらいたいと思います。
ほんとうに素晴らしい体験を娘とさせていただいた事を父として感謝しています。

広島、そして長崎

村瀬　渉

８月６日、午前８時15分史上初となる「原子爆弾」が投下された。

この爆弾の名前は「リトルボーイ」（容姿がやせている男性）という名前だった。

エノラ・ゲイというＢ29爆撃機から投下され、目標の島病院から250mずれて、今の原爆ドーム上空500～600mで爆発したという。この爆発した２分後の写真がある。

それが、広島・長崎原子爆弾の記録という本だ。

この本は、あまり本屋などでは売られていないということなので、だいたい図書館にあると思います。

話を戻して、この本では広島に原子爆弾が落ちた２分後、長崎が 15 分後という時間から撮影が始まっている。けむりがモクモクと立ち上り、だんだん青かった空は赤黒い本当に不気味な空に変わっていったという。

その間にもその不気味な空の下では、それまで考えられないような事が次々と起きていった。

原子爆弾が爆発した後、物凄い爆風が広島を襲った。その爆風で多くの人は吹き飛ばされて川に落ちたり、建物に当たって骨折をしたり、体の打ち所が悪くてそのまま死んでしまった人もいたという。

次に、太陽２個分とも言われる約１万２千度もの熱線が襲った。

この熱線をまともに喰らった人は、全身大火傷を負い、酷い場合は黒こげになって焼死体となってしまうということもあったそうだ。更には、この熱線であちらこちらに火事が起こり、逃げ遅れたり、建物に挟まって身動きが出来ず、そのまま死んでしまったり、火傷を負う人が沢山いたという。そして、一番の恐怖である「放射線」が、降り注いだ。この放射線に当たると、髪の毛が抜けて水が凄く欲しくなり、体にだんだん「死の斑点」と呼ばれる赤い斑点ができ、ついには死んでしまうということだった。ちなみに、被爆者の方の話でよくある水が欲しいとか、水を下さいと言っている人が多くいたということで、水をあげたら、息を引き取っていったという話がある。

これについては、多くの事は解っていませんが、それで当時救護所となっていた練兵場や国民学校（小中学校）では、水を飲ませると危ないということで水を与えるのは、制限されていたそうです。

あと、放射能について僕が怖いと思った話があります。それは、別名「核の雨」や「黒い雨」とよばれている放射能の雨です。放射能の雨と言うのは、まず爆風で舞い上がった塵やホコリ等が集まってできた「キノコ雲」ができる。そのキノコ雲が少しずつ広がっていき太陽が遮断されて辺りは真っ暗になる。そして、火事等で蒸発した大量の水蒸気がキノコ雲の中で急激に冷やされ、不純物や放射能と混ざり合い、「黒い雨」となって地上に降り注ぐ。この黒い雨に触れた人は放射線に当たった人と同じで、癌になりやすくなったり、赤い斑点ができたりと同じような症状ができます。ただ、一つ違うところは、傘をさしていても傘を溶かしたりコンクリートを溶かしたりします。何かを溶かしたりするという所が放射線等とは少し違うなと思います。たった一発の爆弾でこんな事になるなんて、原子爆弾はなんてひどい爆弾なんだろうと思います。20 世紀最大の科学者で、科学の父とも呼ばれるアインシュ

タインは、「私も原子爆弾を作るのを手伝った。しかし、その原子爆弾で多くの人を殺してしまった。多くの人々の心を傷付けてしまった。私がこうしている間にも、原子爆弾で苦しんでいる人がいる。」と、語ったといいます。また、エノラ・ゲイの搭乗員の人は、爆弾を投下した後の事を知り、体の震えが止まらなくなったり、発狂してしまう人もいたそうです。原子爆弾は使った人も苦しめる兵器なんだと思いました。

今、世の核兵器は約１万5,700発で、そのうちロシアが約7,500発。アメリカが7,200発と世界の９割を占めています。現在の核兵器は昔のような爆弾ではなくミサイルです。そのため、命中率も良く、威力も原子爆弾とは比べ物にならないと言われています。

もし、この核兵器が一つでも使われた時、とんでもない被害が出ると僕は思います。なので僕は、核兵器が世界から無くなって武器を手に取る事が無いような世界になって欲しいと思います。

そう、全てはあのヒロシマ・ナガサキの悲劇を繰り返さないために。

広島バスツアーに参加して

村瀬　洸

ぼくは、戦争について本を読んだり、学校で習ったりでしか戦争を知らなかったけど、広島に行って原爆ドームを見て、原子ばくだんのおそろしさとい力をしりました。

原爆ドームもこわれており、金ぞくでできたとびらが紙のようにかんたんにおれまがっていました。

ばく心地２ｋｍのはんいからたすかっても、ほうしゃ線をあびてしまったりして、死んでしまうのがとてもこわかったです。

ろうどく会をきいて一番心に残った詩は、「弟」です。

ぼくが戦争時代に生まれてなくてよかったと思います。

もう一つ心に残った詩があります。

「よしこちゃんがやけどでねていて、とまとがたべたいというので。お母ちゃんがかい出しに行っている間に、よしこちゃんは、死んでいた。いもばっしたべさしてころしちゃったね。お母ちゃんはないた。わたしもないた。みんなもないた。」

この無題という詩を読んで、もうこんなことがおこってはいけないと思いました。

もう戦争が二度とおこらないようにしたいです。

こどもたちとの体験

村瀬　歩

私がこのバスツアーに参加した理由は、近所で毎年開催されている「原爆展」の西宮在住の原爆被害者の会の方と仲良くなったからである。
「親子〇〇体験」というものは、大概が子ども主体にて、「精々こどもに話を聞かせておくのが私の求められている役割だろう」くらいに考えていた。
自己紹介や、感想文をちらちら拝見してみると。なかなかに、保護者の人も平和について語っているとおもいました。
実際の「死」や病気等の「痛み」について、触れたこともないこどもたち。
バスの中で持ち運びのゲームをしていたこどもたち。
毎年原爆被害者の方々は亡くなっている。
私も主人も私たちの両親も実際に戦争をみたわけではないし、祖父母の時代ですら、終戦ま近な世代である。
現実の「痛み」を知らないこどもたちが、ゲームの世界で一生懸命生きて、「わるもの」をたおしている。
そんなこどもたちが「親」になる時代なのだろうとおもう。
お腹が空くこともなく。
親がこどものうちに死ぬこともなく。
痛みを知らない。
汚いを知らない。
たった何十年か前に、自分が産まれた国で起こったできごとなのに。
「痛み」を忘れないで、戦争の無い世の中をしあわせに謳歌して欲しいと願う。
決して他人事ではなく、あやまちを繰り返す危険について学んで頂きたいとおもう。
貴重な体験を、ありがとうございます。
感謝。

被爆体験記朗読会

平和な世界を大切に

藪中　一輝

僕は、原爆ドームや平和記念資料館に行って、原爆の投下により罪のない人々、約 14 万人が亡くなってしまったことを知りました。そして、戦争の怖さや恐ろしさを知り、改めて、「今の世界は平和だな。」と感じました。そして、僕は次の世代にも戦争の恐ろしさを伝え、平和のバトンを渡していきたいと思いました。

子と一緒に平和を勉強して

藪中　嘉彦

息子に平和の大切さを学んで欲しいという思いから、この親子広島バスツアーに参加しました。また、私自身も原爆ドームや平和記念資料館を訪れた経験がなかったため、息子と一緒に、改めて平和について考えたいとの思いもありました。息子は、さまざまな催しを通じて戦争について学び、「現在の生活が平和で幸せなものであること」、「これからもずっと平和を大切にしなければならないこと」を感じとってくれたようで、うれしく思いました。また、帰宅後は一緒に参加できなかった妻や他の兄弟とも平和について話し合うことがあり、このツアーがきっかけで、家族全員が平和について、考えることができました。またの機会がありましたら、参加させていただきたいと思います。

夕食を楽しむ参加者の皆さん

親子広島バスツアーに参加して

山下　爽来

最初、広島にどうして行くのだろうと思いました。「非核」ってどういうことだろうと思いました。広島で、資料館をまわったり、原爆ドームを見ました。原爆の怖さを知りました。平和記念公園で色々なことをして「非核」を訴えていました。６日の平和記念式典で、たくさんの人が来ていました。今は平和なのに、72 年前の同じ日同じ時間に原爆が投下されてたくさんの人たちが亡くなり、街がなくなったのが信じられませんでした。学校の自由研究はこのバスツアーにしました。そのことを書いたり、写真をはったり、資料館の資料を見たら、やっぱり怖くて原爆は使用も持ってもいけないと思いました。

親子広島バスツアーに参加して

山下　直美

私自身が広島に行ったことがなく、教科書、先生の話、戦争の資料の写真またテレビなどからの情報でしか８月６日を知りませんでしたので、娘にも何かを感じ取ってくれたらという思いで参加させていただきました。

実際の原爆ドームを見て、平和記念公園を歩き、言葉を失いました。本当に 72 年前に現実に起こったことなのですが、信じられないという思いでした。72 年前、公園には街があり、人が暮らし、にぎわっていた場所なのだというＣＧが頭をよぎりました。あちらこちらで、反核を様々なスタイルで訴えられていました。娘が、「なぜこんなことをしているのか」と聞いてきました。私なりに説明をしましたが、一人一人がこうやって声を上げ続けていくことが平和へつながるのだということを覚えてほしいと思いました。

資料館では「なんか怖い」とつぶやきながら必死で見て写真を撮っていた娘。教育の場でもっと日常的に戦争や核爆弾の知識、その写真を子供たちに伝えてほしいと強く思います。私が子供のころ、先生方は今よりもっと強力でリアルな資料や映画を学校で教えていたように記憶します。そうやって伝えていくことが、平和へつながるのだと思います。

２日目は平和記念式典の参列でした。５万人の参加者で、ものすごく混みあっていましたが、行方不明者と同じ人数だと聞きました。８月６日、８時 15 分原爆投下・・・黙祷。２度と核兵器は使われてはいけない。オバマ元大統領の「核兵器を持たない勇気」という言葉が世界を変えていくことを祈るばかりです。

何のために広島へ行くのかよくわからなかった娘も、目で見て、耳で聴き、帰るころには、その意味を理解できていました。来年の修学旅行で再び広島に行きますが、一層理解を深めることとなるでしょう。私も、また平和記念式典に参列したいと思いました。

貴重な体験ができた２日間でした。引率していただいた西宮市職員の方々、原爆被害者の会の方、お世話になった皆様、ありがとうございました。

広島ツアー

山本　大翔

ぼくが広島のツアーに行こうと思ったきっかけはせんそうのあった時代の人々がどんなつらい思いや苦しい思いをしていたのか少しでも知りたいと思ったからです。

そしてなぜ今の時代が平和なのかを調べてみたかったからです。

原爆ドームでは一つのばくだんにより建物がくずれ落ちていて資料館では放しゃ能をあびた人たちは大やけどをし何日かに命を落とす人がほとんどでした。こげた一輪車や服などがてんじしていてせんそうはどれだけの人たちを苦しめるのかよく分かりました。これからもずっと平和を続けていきたいです。

平和を考える旅

山本　愛子

72 年前にいったい何がありその時この地はどんなことになり、人々はどうだったのか、そして今の平和を考える機会になればと思っていました。

原爆ドーム、投下場所や資料館を見学し今の私たちの平和な暮らしがどれほどの犠牲のうえにあるのか考え続けています。そしてそれが当たり前ではないことを痛感させられました。

ホテルでの朗読会、ボランティアさんが「平和と言っても難しいかもしれないが、72 年前のあの日も今の私たちと同じように愛する家族がいて穏やかな日常があったこと、一瞬にしてそれを奪われる苦しみを受け止めて今できることから毎日を笑顔に、そして心を寄り添わせてほしい」と仰っていました。本当にその通りです。未来を担う子供たちにも語り継いで考えていくことがとても大切です。

最後にこのツアーに同行しいろいろお世話下さった原爆被害者の会の方々と市の職員の方にお礼申し上げます。

平成 29 年度 親子広島バスツアー行程表

8 月 5 日（土）		8 月 6 日（日）	
8:30	西宮市役所前の「平和非核都市宣言碑」の前に集合	6:00	起床 朝食
		6:40	出発（バス）
9:00	出発（バス） ↓　　高速道路 ↓ ↓ ↓	7:00	平和記念公園に到着
		8:00	平和記念式典
14:30 頃	広島到着（原爆ドーム前） 平和記念資料館、平和記念公園など見学	9:00	式典終了 出発までは自由行動 【原爆被害者の会の方に記念公園内の碑の説明等をしていただきました。(希望者)】
17:00	平和記念資料館　出発		
17:30	宿舎（広島ダイヤモンドホテルに到着）		
		13:00	集合・出発（バス） ↓ ↓　　高速道路 ↓
18:00	夕食		
19:15	出前朗読会（地元ボランティア） 原爆被害の概要(ビデオ上映)、被爆体験記・原爆詩の朗読など	18:30 頃	西宮市役所前に到着
20:30	終了		

平和非核都市 西宮